

==== 認証評価1周年および文科省「特色 GP」選定にちなんで（第2回）====

## F D 特 別 講 演 会（ご案内）

昨 18 年度に本学は自己評価報告書をまとめ、正式に機関別認証評価をクリアしました。また、数年にわたるユニークな取組「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」は、19年度の文科省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP)に選定され、本学の地道な教育実績が社会的にも認知されつつあります。しかし、リアルな学力実態にみあった教育の工夫改善は緒についたばかりです。そこで、学力向上と学生満足度向上をキーワードとして、学生の学びを支援する Faculty Development を一層進めて行きたいと考えています。

今回は、2006 年度新カリキュラムの実施における習熟度別クラス編成、再履修クラスの設置、基礎ゼミの運用方法などにわたって、学習支援の効果と問題点を検証し、良い成果は普及するとともに改善すべきは具体的に改善しよう、ということに焦点を当てて、講演と討論の機会を設けました。学科での種々の苦労や努力、そして工夫と経験があると思いますが、問題を掘り下げる機会として、多数ご参集いただきますよう、ご案内いたします。

（世話人） 教育研究センター長 浅倉 史興  
教務部長(特色 GP 担当) 西岡 昇

日時と会場:

**12 月 20 日(木) 17:00~18:30 大会議室にて(寝屋川 C) 教授会  
後**

### 「入学時と前期末の数学テスト得点分布から」(約 20 分)

講師: 萬代 武史 氏 (基礎理工学科 教授)

「基礎解析・演習」、「微分積分 12・演習」、「力学 1・演習」などは、数年前から習熟度別クラス編成をしてきましたが、最近の学力分布はますます広がっています。具体的な議論のために、入学時のプレイスメントテストや前期末のアチーブメントテストの傾向を報告します。

### 「大学初年次数学教育の再構築—特色 GP の取組から」(約 40 分)

講師: 高橋 哲也 氏 (大阪府立大学 総合教育研究機構 教授)

[大阪府立大学ホームページより] 大学初年次数学科目は、理系の教育課程において必須のものです。が、入学生の学力の多様化、高校までの履修内容の縮減等によって教育内容・方法の抜本的改革を迫られています。大阪府立大学では、総合教育研究機構という教養・基礎教育を専門に担当する部局を創設し、理系学部の 1 年次の数学教育において、「能動的な学習への移行」を基本構想とし、以下の取組を行っています。本取組は他大学にも参考になると考えられます。

【授業内容の検討】 ・統一教科書の作成 ・達成目標の統一

【授業時間外の能動的な学習の支援】 ・数学専用の質問受付室の設置

・e ラーニング教材による授業時間外のサポート

【再履修生への対応】 ・再履修クラスを設け再履修生に特化した授業を実施

【高校、専門とのスムーズな接続】 ・入学生の学力把握のため数学基礎学力試験の実施

・専門科目との接続のため理系部局との意見交換の場の設置